

＜日商簿記2級工業簿記ミニテスト14＞標準原価計算の基礎

＜問題＞

当社の大阪工場では製品Xを製造し、標準原価計算制度を採用している。次の資料に基づいて、次の各問に答えなさい（？部分は各自推算のこと）。

1. 製品X1個あたりの原価標準

直接材料費 @100 円×3kg=300 円

直接労務費 @500 円×2 時間=1,000 円

製造間接費 @240 円× ? = ? 円

※製造間接費は直接作業時間を配賦基準としており、年間正常直接作業時間は？時間、年間予算額は5,760,000 円（うち変動費予算額は月間平均 300,000 円）である。なお、固定製造間接費は予算と実際額は同額であった。

2. 生産データ

	製品 X
月初仕掛品	300 (50%)
当月投入	800
合計	1,100
月末仕掛品	200 (60%)
完成品	900

() 内の数値は加工進捗度を示す。材料はすべて工程の始点で投入されている。

3. 当月の実際原価

直接材料費 : @110×2,500kg=275,000 円

直接労務費 : @480×1,820 時間=873,600 円

変動製造間接費 : 250,000 円

問 1

差異分析（能率差異は変動費と固定費から生じる）を行い、結果を解答欄に記入しなさい。

問 1（借方差異には△をつけること）

総差異	△51,000
直接材料費（価格差異）	△25,000
直接材料費（数量差異）	△10,000
直接労務費（賃率差異）	36,400
直接労務費（時間差異）	△40,000
製造間接費（予算差異）	23,000
製造間接費（能率差異）	△19,200
製造間接費（不働能力差異）	△16,200